

現身

春はいま空のながめにあらはるる

ありともしれぬうすぐもに

なやみて死ぬる蛾のけはひ

ねがひはありや日は遠し

花は幽(かすか)にうち薰(くん)ず

ゆるき光に靈(たましひ)の

煙のごとく泣くごとく

わが身のうつ、ながむれば

紅玉の露たなびけり

隱(かぐ)ろひわたり 染(そ)みわたり

入日の中にしづく声

心もかすむ日ぐれどき

鳥は媚(ね)びつゝ花は黄に

恍惚の中吹き過ぎて

色と色とは弾きあそぶ

慕はしや 春うつす

永遠のゆめ 影のこゑ

身には搖れどもいそがしく

入日の花のとゞまらず

春はわが身にとゞまらず

ありともしれぬうすぐもに

なやみこがるる蛾のけはひ